

# ソフトウェア・シンポジウム2009 教育WG

2009年6月18日(木)-19日(金)

会 場 : 北海道 札幌市 かでる2・7

# 参加者

- 本多 慶匡
  - 所属: 東京エレクトロンソフトウェアテクノロジーズ(株)
- 新井 聡
  - 所属: AGS株式会社
- 谷川 俊雄
  - 所属: 株式会社中電シーティーアイ
- 渡辺 登
  - 所属: 情報処理推進機構
- 小笠原 秀人
  - 所属: (株)東芝

- WG名: 技術者教育 (旧) エンジニアによるエンジニアリング教育について考える
- .担当プログラム委員: 小笠原 秀人 .ML: ss2009-edu .概要

90年代始め、社内の事業場に行くと、エンジニアリング教育のポスターが貼られていた。そのポスターには、講師である社内の第一線技術者の顔写真付きで、エンジニアリング教育の概要が載っていた。その当時は、技術者から技術者への技術移転が意識的に、計画的に行われていたと思われる。

ここ数年、教育の開発や提供は専門組織が担当し、多くの教育が提供されている。しかし、提供されている教育には重複は多く、内容の乏しいものも多い。一方、開発部門においては、開発業務の忙しさから、組織成熟度を高める活善(改善活動、教育コースの開発と実施など)に対する比重が下がり、適切な人材の配置ができていない場合も多い。

本ワーキングでは、まず最初に、各参加者からの発表をもとに、教育に関する最新の動向や問題意識、解決のためのヒントを共有する(キーワードは以下参照)。その後、組織におけるトレーニングプログラムの基本としてSW-CMMの「トレーニングプログラム」(あるいは、CMMIの「組織トレーニング」)を理解する。そして最後に、効果的な技術者教育のあり方について検討する。

本ワーキングへ参加する方には、以下のようなキーワードを参考に、各自の問題意識や課題、提案などのプレゼンテーションをお願いします。

<キーワード>

・スキル標準、PBL(Project Based Learning)、産学連携、教育設計／開発、ID(Instructional Design)

# スタイルと目的

- スタイル
  - 小人数のグループで、じっくりと議論（問題提起や意見交換）をする。
- 目的
  - この議論をとおして、自分自身で抱えている問題の理解を深めるとともに、問題解決のためのヒントを得る。
  - 同じような悩みを持つ方々とのネットワークを作る。



# ディスカッションの進め方

- 以下を1ラウンドとして回す
  - 課題の説明(20分)
  - グループ討論(20分)
  - 討論結果のまとめ(10分)
  - 休憩(10分)

# プログラム

- 1日目

- 9:00-10:00 オープニング & 自己紹介
- 10:00-12:00 谷川さん、渡辺さん(OJT)
- 13:00-14:30 新井さん
- 14:30-16:30 渡辺さん(ETSS)
- 16:30-17:30 本多さん

- 2日目

- 9:00-10:00 CMMIトレーニングプログラム
- 10:00-11:30 テーマを決めて討論、まとめ

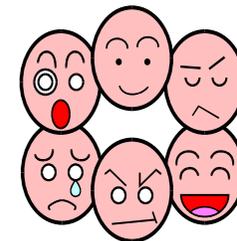
# 自己紹介&抱負など

- 自己紹介
  - 所属、業務、経歴など簡単に
  - 趣味や最近思うことなど、上記以外の紹介也大歓迎
- ワークショップ参加の抱負
  - これを知りたい、学びたい
  - こういったことをやってみたい
  - etc.

# グランドルール

～気軽に、楽しく、でも真面目に議論をするために～

- 良い意見のときはうなづく
- 割り込まない
- 否定的なことは言わない
- 良い意見でなくともうなづく
- そうそう、を言う
- 笑いをとる
- 横やりを入れない
- 時間を厳守する
- 体で反応を伝える
- 最後まで話しを聞く
- 休憩時間を守る
- ボディランゲージで伝える
- 褒める
- 頭に浮かんだことを声に出す
- しゃべるときは手を挙げる
- 発言は短くまとめて明瞭に
- 本音で話す
- 帰ったら忘れる(ここだけの話し)





気軽に、楽しく、  
でも真面目に議  
論しましょう！

渡辺さん、いろいろな資料の提供ありがとうございます。今回のMVPは渡辺さん(何も出ないけど)！

谷川さん、新井さん、初めての参加ありがとうございます！来年も待ってます。



本多さん、ローカルアレンジメント、ありがとうございます。おいしいものをたくさん食べられました(^^)